

令和5年度

【たつの市】認知症地域支援推進員活動報告

【たつの市】認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：5名（専従：4名 兼務：1名）
- 2 認知症地域支援推進員の役割

医療・介護等の 支援ネットワーク 構築

- ・認知症疾患医療センターを含む医療機関、介護サービス事業所等関係者の連携体制構築
- ・認知症ケアネット（赤とんぼ連携ノート、認知症生活べんり帳）の作成・普及

相談支援 ・ 支援体制構築

- ・認知症予防普及啓発（個別相談、講座の実施など）
- ・認知症初期集中支援チームの主導・調整
- ・もの忘れ相談の実施
- ・認知症の相談支援、認知症カフェ等の支援
- ・若年性認知症の相談支援、若年性認知症カフェの開催
- ・チームオレンジの構築
- ・はいかい高齢者等見守りSOSネットワーク構築
- ・はいかい高齢者家族支援サービス（GPS貸出、はいかい高齢者等お出かけリスクゼロ事業）の普及
- ・介護マークの普及

認知症対応力 向上のための 支援

- ・認知症に関する正しい知識の普及・啓発
- ・認知症対応力向上研修を医師会等と共催、多職種協働研修の開催
- ・たつの市キャラバン・メイト連絡会の支援、認知症サポーターの支援



報告者氏名：前田 弥央・福井暁子・福本久美・半田由紀子

認知症施策推進大綱

【基本的考え方】

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人や家族の視点を重視しながら『共生』と『予防』を車の両輪として施策を推進

コンセプト

○認知症は誰もがなりうるものであり、家族や身近な人が認知症になることも含め、多くの人にとって身近なものとなっている。

○生活上の困難が生じた場合でも、重症化を予防しつつ、周囲や地域の理解と協力の下、本人が希望を持って前を向き、力を生かしていくことで極力それを減らし、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる社会を目指す。

○運動不足の改善、糖尿病や高血圧症等の生活習慣病の予防、社会参加による社会的孤立の解消や役割の保持等が、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防に関するエビデンスを収集・普及し、正しい理解に基づき、予防を含めた認知症への「備え」としての取組を促す。結果として70歳代での発症を10年間で1歳遅らせることを目指す。また、認知症の発症や進行の仕組みの解明や予防法・治療法等の研究開発を進める。

令和5年度たつの市認知症施策一覧

目指すべき社会

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって過ごせる社会

具体的な施策

認知機能の低下のない人、プレクリニカル期
認知症発症を遅らせる取組（一次予防）の推進

認知機能の低下のある人（軽度認知障害（MCI）含む）
早期発見・早期対応（二次予防）、発症後の進行を遅らせる取組（三次予防）の推進

認知症の人
認知症の本人の視点に立った「認知症バリアフリー」の推進

① 普及啓発・本人発信支援

- 認知症サポーター養成講座・フォローアップ講座：認知症を正しく理解し、認知症の方やその家族を応援するサポーター養成の定例講座等を実施。認知症サポーターの自主的な活動を推進する。
- 認知症キッズサポーター養成講座：小中学校教育の中で、認知症への理解を深めるため認知症サポーター講座を実施。
- キャラバン・メイトの活動支援：キャラバン・メイトの活動を支援、定期的に連絡会実施。
- 本人ミーティングの普及啓発
- 認知症生活本べり帳の普及・活用：認知症の予防段階から状態に合わせて利用できる相談先や制度、サービスをまとめた冊子
- 能野城・大正公園館ライトアップ
- 認知症図書コーナーの設置

② 予防

- 認知症予防普及啓発：認知機能評価ツール（脳活バランサー）を用いた個別相談。のう KNOW を活用したブレインパフォーマンス（脳の健康度）のセルフチェック。認知症予防講演会（年1回）、出前講座「認知症予防講座（認知症に備える）」の実施。いきいき百歳体操4年目グループに認知症予防講座を実施。

③ 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

- 認知症初期集中支援チームによる訪問支援：専門家チームが本人や家族を訪問し、家族支援や助言等を行い、必要な医療・介護サービスの利用へのつなぎを行う。
- DASCを使用した実態把握訪問による認知症の早期発見
- もの忘れ相談：専門医による認知症個別相談（年間6回）
- かかりつけ医向け認知症対応方向向上研修・病院勤務の医療従事者向け認知症対応方向向上研修
- 認知症等に関する医師会・西播磨認知症疾患医療センターとの連携会議：年数回実施予定
- 赤とんぼ連携ノート～認知症に備える私のノート～の普及：認知症になる前から、医療、介護の情報や大切なことを書いておき、本人の希望に沿った支援、連携支援に役立てる。
- 認知症生活本べり帳の普及
- 認知症連携ツール：認知症の方が入院・入所する際に、BPSD 連携表（かかりつけ医が記入）、OLS 基本情報（ケアマネが記入）で連携を図る。
- たつのカフェ（認知症カフェ）の運営と支援
- たつの市認知症カフェ連絡会：認知症の人や家族の介護負担の軽減を図るため、誰もが気軽に参加でき集う「たつのカフェ（認知症カフェ）」の運営支援を行うために、情報交換の場として連絡会を創設。（年2回程度）

④ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

- はいかい高齢者等見守り SOS ネットワーク：事前登録（ビカッとシューズステッカー）、緊急時の捜索体制、日常の見守り体制の構築を図る。
- はいかい高齢者家族支援サービス：GPS 端末機を利用した所在不明時の捜索、保護サービス。
- はいかい高齢者等おかけリスクゼロ事業：日常生活に起因する偶発的事故等により他人にケガをさせたり財物を壊したこと等により法律上の損害賠償責任を負った際に、市がその損害を賠償する保険に加入することで、認知症の人とその家族が安心して暮らし続けられるための環境整備を行っている。
- 安心声かけ体験講座・訓練：はいかい高齢者への声かけの仕方を学び、地域における見守り体制を強化するための講座を実施。希望される自治体で模擬訓練を実施。
- 介護マークの普及：認知症の人の介護において、介護中であることを周囲にわかりやすくするための名札型介護マークを配布。
- 生活支援の充実
- 住宅等の環境整備
- 社会参加の支援
- 消費者被害の防止
- 成年後見制度の活用促進
- 高齢者の虐待防止
- 若年性認知症交流会（きりかぶカフェ）：NPO法人いんいぶと協働し、若年性認知症の方やその家族が「集う」「つながる（仲間とつながる）」「働く（就労相談）」場として創設。
- チームオレンジの構築

⑤ 研究開発・産業促進・国際展開

- 兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター
リハビリテーション西播磨病院 認知症疾患医療センターへの協力等

認知症の人や家族の視点を重視

上記1～5の施策は、認知症の人やその家族の意見を踏まえ、立案及び推進する。

⑤地域共生社会・認知症バリアフリー実現に向けた取り組み

チームオレンジ立ち上げの取り組み

～2チーム目の立ち上げに向けて～

認知症地域支援推進員4名で情報共有し、うち2名が中心となり、チームオレンジ立ち上げに取り組んだ。

【事前準備】

- ・実施マニュアルの確認
- ・チームオレンジ結成チラシの修正

【グループ選定】

- ・認知症サポーター養成講座を受講しているグループ
- ・既に認知症の方とともに活動をしているグループ

認知症サポーター養成講座で学んだことを生かして

チームオレンジを結成しませんか

(認知症サポーター交流拠点)

チームオレンジとは

- ・認知症サポーターによるボランティア活動です。
- ・リーダーを中心に、地域の中に数名のチームをつくります。
- ・認知症の人やその家族のニーズと認知症サポーターによる支援をつなぎます。
- ・資格や経験は問いませんが、認知症サポーターであることとステップアップ講座の受講がメンバーになる条件です。
- ・認知症の人もメンバーとして参加していただけます。



活動内容や運営方法について、特別な決まりはありません。
今取り組んでいる活動をそのままチームオレンジとして続けていただくこともできます。

すでに拠点が有りメンバーも揃っているチームは？

今までの活動を今までの場所で

- ・まちなかサロン
- ・認知症カフェ
- ・介護予防教室、介護相談
- ・趣味の活動(カラオケ、手芸、囲碁・将棋)

拠点は無いけれど、メンバーが揃っているチームは？

ご自宅や施設等への訪問支援で

- ・散歩や買い物
- ・話し相手
- ・簡単な家事と一緒に




認知症の人やその家族などだれもが気兼ねなく参加できて、自由に歓談しリラックスして過ごすことのできる楽しい場所づくりを目指します。

お問い合わせ：たつの市地域包括支援課 認知症支援係 (TEL. 0791-64-3125)
チームオレンジの活動をサポートします。

現在、個人でのお申込みはお受けしておりません。
リーダーを中心に数名のメンバーがおられるグループからのご相談をお待ちしています。

⑤地域共生社会・認知症バリアフリー実現に向けた取り組み チームオレンジ立ち上げの取り組み ～2チーム目の立ち上げに向けて～

①市内の多世代交流カフェへ

チームオレンジの説明
とステップアップ講座
の調整へ

スタッフが認知症サポーター養成講座を受講。認知症の方が普段からカフェを利用。スタッフ同士で情報共有し、さりげなく見守りされている。認知症の方もステージ奏者として活躍する音楽イベントを実施。

②自治会の支え合いネットワークへ

「誰もが安心して心豊かに暮らせる地域づくり」に取り組む自治会のネットワーク。本人・家族の同意を得て情報台帳を整え、自治会内を10エリアに分けてささえあいマップを作成。毎週木曜日には公民館で健康講座といきいき百歳体操実施。

⑤地域共生社会・認知症バリアフリー実現に向けた取り組み

チームオレンジ立ち上げの取り組み

～2チーム目の立ち上げに向けて～

【立ち上げにおいて大切にしている事】

チームオレンジという新たな

「**枠組み**」や「**形**」をつくる事ではない

- ・ 既存の資源や地域のつながりを大切にする
- ・ 認知症の方やその家族の思い、意見を大切にする
- ・ 認知症のあるなしに関わらず、認知症の方も認知症でない方も、皆がともに活動している事

⑤地域共生社会・認知症バリアフリー実現に向けた取り組み

チームオレンジ立ち上げの取り組み

～課題と今後の取り組み～

①「チームオレンジ」についての普及啓発

チームオレンジがよく分からない、何か特別な事が必要？と言った声を聞き、チームオレンジについての更なる普及啓発が必要

②チームリーダーの発掘とリーダーの活動維持とサポート

リーダーになる事に強い負担感や不安を抱かれないように、また既にされている活動が維持・継続できるように配慮が必要

③チームオレンジ立ち上げ後のフォローアップ(つながり合いと地域づくり)

立ち上げるだけでなく、その後のチームの活動状況の確認やチームメンバーの変更によるステップアップ講座受講など伴走が必要

⑤地域共生社会・認知症バリアフリー実現に向けた取り組み チームオレンジ立ち上げの取り組み ～課題と今後の取り組み～

【今後について】

令和6年度も2チーム目のチームオレンジ
立ち上げに向けて取り組み継続中

- ・ チームオレンジの普及啓発
- ・ ステップアップ講座実施（6月・9月予定）
- ・ 既に活動しているチームのフォローアップ

